

とおの 議会だより

平成25年(2013)1月

No.31



人・農・自然

権現様の歳取りに

昨年末に、宮守町達曾部の涌水神楽の権現様の歳取りの神事が行われました。

本来ならば、保存会各戸で持ち回りの開催ですが、今回は緑のふるさと協力隊員の家富万里さんが居住する大川目地区集会所を会場に、隣近所の方々を招いての歳取りとなり、万里さんが夏から練習を重ねてきた三番叟の舞も披露されました。

近所の方々は躍動感ある舞に驚き、神楽衆も紅一点の上達を厳しさと優しさで称え、その後、賑やかな宴となりました。

主な内容

12月定例会

- ◆年始のあいさつ、定例会等の概要…………… 2 P
- ◆12月定例会議案審議結果 …………… 3 P
- ◆市民と議会との秋の懇談会について…………… 4 P
- ◆行政視察報告等…………… 5～7 P
- ◆予算等審査特別委員会質疑…………… 8～9 P
- ◆一般質問 10人が登壇 …………… 10～19 P
- ◆私のひとこと、編集後記…………… 20 P

新年のご挨拶



遠野市議会議長
新田 勝見

市民の皆様、明けましておめでとうございます。

昨年は、遠野市議会にとりまして、情報公開、住民参加、議会機能強化という理念に基づいた議会基本条例を制定し、本会議での一問一答方式の導入、住民参加による市民と議会との「秋の懇談会」の開催など、実りのある一年となりました。これもひとえに市民の皆様のご理解と、議会活動への積極的参加のたまものと感謝いたします。

本年も、復興支援と、市政課題の解決のために、真摯に取り組まなければなら

ません。農林畜産、商工業の振興や、中心市街地の活性化、また、福祉、医療、介護、少子化などの諸課題、そして高速交通網の整備など、今後、市がどう発展していけばいいのか考えていくことが重要となります。

議会と市当局が両輪となり、山積する課題について、大いに議論していきたいと思っております。

結びに、本年が市民の皆様にとりまして、ご健勝で幸多き年でありますように祈念し、年頭のご挨拶といたします。

12月定例会

平成24年12月定例会が12月7日に招集され、14日までの8日間の会期で開かれました。

一般質問には10人の議員が登壇し、市政を問いました。

今定例会では、提案された平成24年度補正予算関係7件、条例関係6件、その7件の全議案を原案のとおり可決したほか、最終日には発議案2件を可決しました。

議員発議

今定例会では、2件の議員発議案が提出され、原案のとおり可決しました。

●発議案第11号

遠野市議会委員会条例の一部を改正する条例の制定について

●発議案第12号

遠野市議会会議規則の一部を改正する規則の制定について

11月臨時会

平成24年11月臨時会が11月16日に開かれ、提案された6議案を原案のとおり可決、同意しました。

◆議案第84号

遠野市立遠野中学校校舎（第1期）改築工事の変更請負契約の締結について

◆議案第85号

財産の取得について

◆議案第86号

財産の取得について

◆議案第87号

財産の取得について

◆議案第88号

財産の取得について

◆議案第89号

教育委員会の委員の任命につき同意を求めることについて

角田 直樹氏

広聴広報常任委員会を新設

このたび、平成24年12月定例会で、広聴広報特別委員会が廃止され、広聴広報常任委員会が新たに設置されました。これで常任委員会は4つとなりました。

広聴広報常任委員会の新しい委員は次の通りです。

- | | |
|------|--------|
| 委員長 | 瀧澤 征幸 |
| 副委員長 | 菊池由紀夫 |
| 委員 | 萩野 幸弘 |
| 委員 | 瀧本 孝一 |
| 委員 | 多田 勉 |
| 委員 | 佐々木大三郎 |

12月定例会議案審議結果

議 案 名		賛成	反対
議案第90号	平成24年度遠野市一般会計補正予算（第3号）の専決処分に関し承認を求めることについて	全員賛成	
議案第91号	遠野市指定地域密着型サービスの事業の人員、設備及び運営に関する基準等を定める条例の制定について	全員賛成	
議案第92号	遠野市指定地域密着型介護予防サービスの事業の人員、設備及び運営並びに指定地域密着型介護予防サービスに係る介護予防のための効果的な支援の方法に関する基準等を定める条例の制定について	全員賛成	
議案第93号	遠野市民センター条例の一部を改正する条例の制定について	全員賛成	
議案第94号	遠野市道路占用料徴収条例の一部を改正する条例の制定について	全員賛成	
議案第95号	遠野市下水道条例の一部を改正する条例の制定について	全員賛成	
議案第96号	遠野市立博物館条例及び遠野市民センター条例の一部を改正する条例の制定について	全員賛成	
議案第97号	公の施設の指定管理者の指定について	全員賛成	
議案第98号	公の施設の指定管理者の指定について	全員賛成	
議案第99号	公の施設の指定管理者の指定について	全員賛成	
議案第100号	公の施設の指定管理者の指定について	全員賛成	
議案第101号	公の施設の指定管理者の指定について	全員賛成	
議案第102号	公の施設の指定管理者の指定について	全員賛成	
議案第103号	公の施設の指定管理者の指定について	全員賛成	
議案第104号	平成24年度遠野市一般会計補正予算（第4号）	全員賛成	
議案第105号	平成24年度遠野市国民健康保険特別会計補正予算（第2号）	全員賛成	
議案第106号	平成24年度遠野市介護保険特別会計補正予算（第2号）	全員賛成	
議案第107号	平成24年度遠野市ケーブルテレビ事業特別会計補正予算（第2号）	全員賛成	
議案第108号	平成24年度遠野市下水道事業特別会計補正予算（第2号）	全員賛成	
議案第109号	平成24年度遠野市水道事業会計補正予算（第3号）	全員賛成	



「秋の懇談会」の結果報告

11月6日から3日間実施した市民と議会との「秋の懇談会」の結果は、以下のとおりとなりました。

1 市民参加者 115人（うち、女性13人）

2 質問提言数 134項目

3 主な質問・提言内容

- (1) 野生鳥獣被害対策について
- (2) 中学校再編成後の跡地利用について
- (3) 民生委員のなり手不足対策について
- (4) スクールバス利用と通学路の安全対策について
- (5) 放射能除染対策と損害賠償について
- (6) 高規格道完成に伴う風の丘・上郷産直への誘客対策について
- (7) 行政区・区長報酬の見直しについて
- (8) 除雪・排雪対策について
- (9) タフ・ビジョンによる具体的な農業振興について
- (10) 新庁舎の建設について



土淵地区センターでの懇談会

このほかに、議会改革の取り組み状況では、一般質問時の一問一答方式を実施しての反省点や、今後の懇談会についての意見がありました。

「懇談会のまとめ」は、市内の各地区センターに配布していますので、是非ご覧ください。

なお、今回の「秋の懇談会」に引き続き、「春の懇談会」も4月に開催予定となっております。詳しい開催日時・場所につきましては、次回発行の議会だよりに掲載予定です。



松崎地区センターでの懇談会



小友地区センターでの懇談会

産業建設常任委員会 行政視察報告

(委員長 多田 誠一)

●日程

平成24年10月30日～11月1日

【視察研修先】

石川県鳳珠郡能登町

石川県羽咋市

◆春蘭の里実行委員会の取り組み

奥能登春蘭の里実行委員会は、能登町の北西部に位置し、標高200mの中山間にあり、農地は川沿いに極めて狭小に連なり、高齢化率が高く、過疎化が進む集落の将来を懸念。会社員、建設業、農林業の有志により、「春蘭の里実行委員会」が設立され、活性化に向けた活動が始まり、現在に至っている。

奥能登らしい農家民宿群にこだわりの外観は白壁と黒瓦に統一し、輪島塗の食器による食事を提供している。民宿群は、40戸に拡大、また、廃校を宿泊施設に改



造し、地区民によるオーナー制により運営されている。修学旅行、観光客を積極的に受け入れ、月40万円の売り上げを目指し、地場食材の活用、後継者の育成に努めている。体験工房や野菜作り、夜は昔話、伝説等、語り部には女性や高齢者が参加し、都市住民との交流

の広がりにも務めている。「春蘭の里」の商標登録を行い、商品開発、農産物の生産、菓子、惣菜の製造業の許可を取得、これらを加工作業する「(有)春蘭の里ファーム」「(農)夢づくり工房」を設立し、雇用の場を創出している。

◆「山彦計画」の実施

羽咋市の山村集落活性化計画「山彦計画」について、神子原地区は、高齢化率54%、耕作面積110ha(うち、遊休地46ha)人口500人(20年で人口半減)積雪2mの中山間地域である。山彦計画を策定し、山村集落の活性化を目指している。

山彦計画を実行するためには、住民と行政が理念を共有し、行動していくこと、

従来の流通を変える戦略に基づいて幾つものプロジェクトを同時並行して進めていくことが大事。世界の米、神子原米を誕生させる(価格3倍)ことによりブランド価値が高まり、農家の出資により、「農業法人株式会社 神子の里」を設立、人工衛星が撮影した水田稲作のデータ解析を活用した良質米作りをしている。また、女性による加工直売施設、「神子の里」を設立した。

都市との交流を図るとともに、能登地方に伝わる風習「よぼし親子」(疑似の親子関係)を活用し、体験宿泊を受け入れるとともに、大学生による援農、移住民への農家と農地のセットでの貸与、専門性を持った人の移住から生じる新しい農業なども始まっており、こ

れからの農業や地域を熱く語り、活性化させる人材の育成を目指している。厳しい環境の中で、情熱を持つて大きな地域課題に真正面から取り組む両者の姿勢にふれることができたことは、とても有意義であった。



教育民生常任委員会 行政視察報告

(委員長 菊池 巳喜男)

●日程
平成24年10月30日～11月1日

【視察研修先】

北海道福島町
渡島廃棄物処理広域連合
北海道電力伊達発電所
北海道伊達市

◆リレーポート渡島西部 (ゴミの中継施設)の取 り組み

福島町では、渡島半島南西部の1市9町で構成される渡島廃棄物処理広域連合の中で、「ゴミ中継施設の「リレーポート渡島西部」を視察した。この施設は、平成14年度に施設完成、供用開始し10年目を経過したが、施設は衛生的で悪臭も感じられず環境保全に配慮した施設であった。

当市も、清養園クリーンセンター内に、ゴミ中継施設を整備する計画となっていることから、中継基地と

して既に整備運営している「リレーポート渡島西部」を視察地とした。広域で最も問題になるのは、公平な負担であるが、人口割りでゴミ量でもない、全く公平な負担方式により運営されていることは、注目に値する。しかも、リレーポートの設置場所は、地理的にも公平なところに作ったという。

◆北海道電力伊達発電所の ソーラー発電施設の取り 組み

伊達市内に建設、昨年6月から運転開始された北海道電力伊達ソーラー発電所を視察した。3haの広大な敷地に、7,200㎡の太陽光モジュールが設置され、1日に一般家庭約300軒分の電力を生み出すという。この施設は震災以降、新エネ

ルギーとして注目され、無尽蔵でクリーンな発電、環

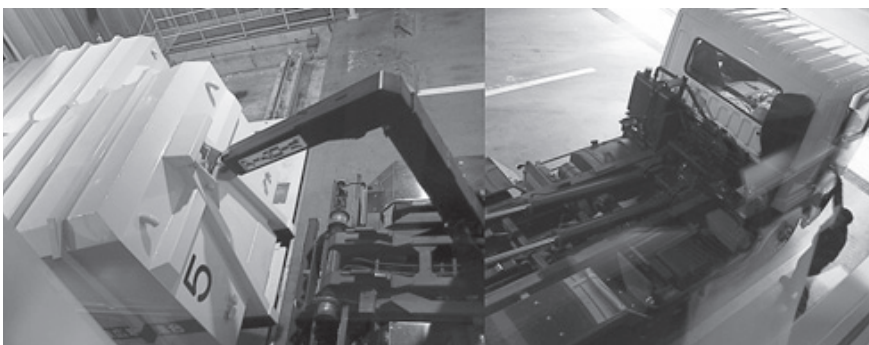


境負荷もゼロに等しい事で、今後、蓄電池との組み合わせにより、安定した電力供給が期待されるとの説明であった。遠野市でも安心安全なエネルギーの導入が、一刻も早く待たれる。

◆伊達市の市立保育所の民 営化の取り組み

最後は、伊達市の市立保育所の民営化取り組みを視察した。主な経緯は、少子

化の進行・景気低迷・女性就労機会の増加などの社会情勢の変化を背景に、保育を取り巻く環境が変化し、各種保育需要が増加、質的向上等保育に関するニーズが多様化したことから民営化に至ったとのことであった。市民のニーズは、比較的私立志向が強い傾向にあるためか、民営化はスムーズに行われたとのこと。当市の状況とは一概に比較できないと感じられた。



広聴広報特別委員会 行政視察報告

(委員長 瀧澤 征幸)

●日程

平成24年11月14日～15日

印刷会社の選定は重要だと再認識をした。



利府町での研修風景

委員の構成は、委員長が議会の副議長、副委員長はベテラン議員、以外は新人議員が担当している。

平成18年6月から、一般質問において一問一答方式を導入し、質問者のほとんどが一問一答方式(30分以内)で行っている。一般質問の記事については議事録と照合して検閲を行っている。

委員の構成は、委員長が議会の副議長、副委員長はベテラン議員、以外は新人議員が担当している。

平成18年6月から、一般質問において一問一答方式を導入し、質問者のほとんどが一問一答方式(30分以内)で行っている。一般質問の記事については議事録と照合して検閲を行っている。

【調査地】
宮城県 利府町
宮城県 美里町
利府町では、平成23年5月に、議会編集特別委員会が議会広報常任委員会に昇格した。町独自の広報作成マニュアルがあり、大変分かりやすく、参考になるものである。

編集方法は、2ページずつを委員に割当て、文字、記事内容、レイアウトなどを担当する仕組みにし、委員一人ひとりの責任度合いが高まる手法を取っている。1ページあたりの紙面づくりでは、文章が40%、見出しと写真が40%、余白とイラストが20%を心掛け、余白(白地)は決して無駄ではないという紙面づくりを

また、毎年東京で開催される議会広報研修会に参加しており、お金をかけても研修する価値が十分にあるとのことだった。美里町の議会だよりは、常に全国コンクールにおいて上位入賞し、しかも、全国25番目では宮城県内の町村が入るといふから驚く。

現在、特別委員会が議会だよりを編集しているが、常任委員会への検討を行っているようである。また、議会の中継をインターネットで配信することも検討中とのこと。

印刷会社は利府町と同じで、美里町が利府町にその会社を紹介したとのこと。



美里町での研修風景



委員会の開催風景

予算等審査特別委員会（議長を除く19人の議員で構成、委員長は菊池民彌議員、副委員長は安部重幸議員）は、条例6件、予算7件、その他7件について付託を受けて2日間の審議を行いました。

今委員会では、今後の施策全般にわたり活発な質疑が交わされました。その結果、全20議案が原案のとおり可決されました。

市民サッカー場の名称変更する経緯は何か

問 「遠野市民サッカー場」を「遠野市国体記念公園市民サッカー場」に名称変更する経緯は

答 第71回岩手国体サッカー少年男子競技会場としてAコートを手芝グラウンドに整備するが、それに合わせて健康づくりでの活用等市民が利用しやすい施設の整備を進める趣旨から変更する。

問 名称を変更する場合の基本的なスタンスは

答 利用頻度や認知度の向上、他の施設と混同する等誤解を招く場合、その他必要に応じ変更する事が考えられる。

問 「公園」を名称に取り入れた率直な理由は

答 今回の施設改修は社会資本総合整備交付金を活用

するが、その交付要件として公園という位置づけが必要なため。

遠野独自の地域密着型サービスとは

問 指定地域密着型サービス等の事業の人員、設備及び運営等に関する基準を定める条例はこれまでは国が定めていたものであるが、今回遠野市として条例化することとなる。しかし、遠野市内には、この条例に該当するサービスが、いわゆる認知症に対応した通所介護と共同生活介護、そして小規模多機能型居宅介護の3つしか該当しないが。

答 今まで要介護度が高い方々は、これまでと大きく施設とか病院に入ってしまった自宅に居ることが困難であったが、この事業により自宅でも介護や医療の環境が整うようにというものである。この先介護者が増えてきたときに、施設に入ら

なくても自宅にいたいという人たちのために、予めこのような基準を定めておくものである。

問 この3つのサービスだけで介護需要を賄いきれるのか。また、実際としての責任が市としても問われる事業だと思う。従って監督責務も出てくると思うが。

答 現在行われている3つのサービスを展開している事業所に関しては、当市で指導・監督を2年に1回最低でも行っている。今後は更なる指導等の充実を図りたい。また、この3つのサービスしか今回の条例には関係しないが、24時間対応や夜間訪問のサービスについても、ヘルパーステーションや訪問看護ステーションが連携して、介護・医療のサービスをカバーしていくこととなる。

遠野の農業の振興策は

問 アストが販売額を計画する際、現在や5年後の労働力をどう捉えているか。

答 地域農業マスタープランを作成するにあたり、農地の受け手、出し手を把握する中で、ある程度の労働力を算出している。

問 アスト100億プランは家族労働が支えてきたが、家族労働が減っている中、遠野農業確立の計画に際し労働力確保をどうするのか。

答 集落営農や法人が増えていくと想定している。策定中の人・農地プランの中で形づくりをし、遠野農業振興策を講じていく。

除雪の現状は

問 昨年度地区センターに配置された小型除雪機の利用状況は



除雪機械等操作講習会のような様子

答 各地区センターに1台ずつ計9台を配置したが、配置時期が1月末と遅れたこともあり利用は計45回ほどで少なめになっている。その原因は、活用方法の工夫等についてのPR不足と認識しており、今後詳細内容を検証のうえ改善策を講じるようにする。

問 地区センターから離れた地域に住んでいる生活弱者の除雪は市民協働による取り組みが必要なのでは

答 地区センター配置の除雪機は、運搬が煩わしくて使にくいという地域には、除雪機械購入に対し100%補助対応の「地域支え合い体制事業」が新たに設けられたので活用してほしい。

**青年就農給付金制度の
利活用とそのPRは**

問 耕作放棄地を解消するための受け皿をどのように構築するのか。

答 現状で15haあり、再生協議会で協議を重ね解消していきたい。

問 タフビジョンの10億円達成アクションプランの具体的中身が見えない。作目別の生産販売額も示されていないが。

答 地域別生産額は公表していない。数値的なものも個々の分について把握していない状況であるが、今後JAの販売額をもとに地域座談会などの開催の中でしめていきたい。

問 目標を示し、生産意欲が湧く数値を示すべきでは

答 アスト立ち上げの時点に帰り、体制を整備し取り組みたい。

問 複合経営が主体の農家の経営分析指導も必要と考えるし、耕作放棄地を開放すべきと言う声もあり危機感を感じるが。

答 農地、非農地の区分けも難しい部分があり、部門別の経営状況の把握と目標値設定も必要と考える。耕作放棄地解消と解消後の有効活用は大きな課題である。

問 日本一のホップ生産栽培において、不足が生じ増産が求められていると聞く。特産物への指導を強化すべきと考えるが。

答 ホップは、遠野に適した作目で増産が可能であれば、積極的に取り組みたい。

問 ホップ栽培は高所での作業もあり、高齢化の進展に伴い収穫の共同作業にも課題があり、減反する農家もあるのではそうした圃場に青年就農給付金制度をPRしグループで取組み、ひとつの圃場に先生と生徒が存

在し生産にあたることも可能と考えるが。

答 青年就農給付金制度が今年度からスタートし、七経営体が受給している。ホップ栽培のグループができ、先生と生徒という形でこの制度がうまく伝わっていく状況が作れば良いなという思いである。提言にあったことを含めて、検討させていただきたい。



遠野市と花巻市の両市をまたぐ市道長崎線

**市道長崎線の道路管理
負担金の内容は**

問 道路除排雪業務における市道長崎線の道路管理負担金の内容は

答 宮守町に遠野市と花巻市の境に長崎川という川があり、川を挟んで両市が交互に入り組んでいる長崎地

区は、これまで冬季の除雪は月ごとに交替でやってきた。地域への安定した除雪対応のため花巻市と協議をし、今シーズンから花巻市でやってもらうという協定を結んだが、そのための予算である。

問 それは地元自治会や住民からの要望か。市の判断か。住民への周知は

答 個々の住民からの要望ではないが、これまでの経緯で遠野市や花巻市双方に連絡しなければならぬなど都合があり、区別をしないで一貫的にやった方が効率的であり、総合支所や区長を通じて話をしている。

問 今後は年ごとの交替になるのか。このまま花巻市に委託する方法か。

答 長期の分の詳細についてはこれから詰めるが、基本的には花巻市にお願いし、より良い除雪体制を築いていきたい。

生活保護から就労へ つなげる取り組みは

一問一答
方式



佐々木大三郎 議員
(清風会)

問 厳しい生活環境を強い
られている生活保護者に對
し、更なる支援策が必要と
考えるが。

答 支援強化策として、既
にケースワーカーの増員
(1名)や就業支援員(2
名)・雇用創出推進員(1名)
の配置によるハローワーク
等との雇用創出連携、また、
電気・水道・ガス事業者の
協力による生活困窮者の早
期発見と救済に努めている。
更に他事業者にも協力を依
頼し、更なる支援体制の拡
充を図りたい。

問 政府は増え続ける生活
保護対策として、生活保護
費の給付水準引き下げ等を
検討しているが、このこと
に対しどう考えるか。

答 昨今、受給者の殆どが
不正受給をしていると思え
るような報道や、蔑視扱
いなど配慮を欠いた動きは残
念に思う。支給基準の引き
下げについては、国の見直
し作業を見守ることにな
る。

問 生活保護から就労へと
つなげる取り組みが必要と
思うが。

答 今年6月から取り組ん
でいる「福祉から就労」支

援事業により、就労意欲を
一定程度有する受給者に就
労支援と就労後のフォロー
アップを行い、世帯の自立
を助長・推進するように努
めている。今後は、福祉部
門と関係部署や他団体との
更なる連携により、個々の
状態に応じたきめ細やかな
就労支援体制構築に努めた
い。

問 交通弱者救済のため、
利便性を考慮した交通手段
の確保やルート・ダイヤの
再編に早期に手を打つべき
と思うが。

答 これまで路線バスの撤
退や運行廃止には、補助金

による赤字補填で代替路線
バスの運行を維持・継続し
てきた。また、低料金バス
運行や、交通空白地域解消
のため路線延長・ルートの
見直し、個別訪問型デマン
ド交通の導入等により交通
弱者の利便性向上に努めて
きた。高齢者福祉対策は急
務であると認識しており、
これからの改善に向けた取
り組みを進める。

問 救済策として、スクー
ルバスをコミュニティ・バ
スとして活用してはどうか。

答 スクールバスの活用に
当たっては、来年4月以降
の運用により限られた時間
を活用して、どのような住
民サービスが可能かどうか
や、総合的な配車機能の確
認、他の旅客運送事業者と
の棲み分け・調整などが必
要なことから、一定期間の

交通弱者対策の考えは



福祉の里の受付窓口

運行実績に基づいた検証に
より実現に向けた検討・調
整を進めたい。



菊池 充 議員
（無会派）

タフ・ビジョンの 中間目標年の達成状況は

一問一答
方式

問 タフ・ビジョンの中間目標年の達成状況と、目標年への取り組み方針について伺う。

答 中間目標年の検証では、農業振興・畜産振興・林業振興において目標を達成したのもあれば、未達成のものもあつた。指導体制についても、個々の農家のニーズに対応したきめ細やかな支援、隙間を埋めるといふ点では、一定の成果は出ているものの、農家に対する

巡回指導や系統出荷拡大の取り組みなどについては、アスト発足当時と比べて活動が弱かつたなどの反省点もある。愚直に基本に立ち返り、目標達成に向けてきめ細やかな情報の提供に努めていく。

問 建設がスタートしたキャトルセンターの利用計画について伺う。

答 現在整備が進められている大野平キャトルセンターに、今後整備を予定している石羽根キャトルセンターと併せた事業計画となっており、二つのキャトルセンターを併せた規模は、成牛四百頭、子牛三百頭、分娩等の集中管理部門に50頭の併せて七五〇頭の規模で、

平成26年度に施設全体が完成予定である。指摘された畜産農家への説明会については、年度内に実施を計画しており、情報の共有と課題を共有しながら、総合力をもつて遠野の畜産を活性化していく。

問 汚染牧草地等の除染及び支援対策について伺う。

答 24年度施工は初めてのことであり、様々な要因が重なって目標560haの75%、422haにとどまつた。25年度の1,300ha

については、除染作業の実行体制を着実に構築し、目標達成に向けて十分な体制を整える。基準値以下についても、自力で取り組む農家に対し、前倒しで経費の助成を行っていく。

問 しいたけ生産に対する除染及び支援について伺う。

答 今年度出荷が規制された乾燥しいたけの集中管理や、50ベクレル/kgを超えたホダ木の処分を行うと共に、ホダ場の除染状況を調査し、実施について検討するなど、生産物が基準値以下となり、平成25年産から出荷規制が解除され、生産出荷が再開できるよう対策を講じていく。

汚染牧草地等の 除染及び支援対策は



自力施工による除染作業の風景

遠野の豊かな山林資源を活用した 木質バイオマスの利用推進を

一括質問
方式



小松 大成 議員
(無党派)

疑問に感じない訳ではないが、選挙という民意表明の中で結果が出される。首長という立場で、長期にわたり国政選挙に関わることに疑問である。

関係事業所の適切な対応で大きな混乱はない。制度が多層かつ複雑化してきているので、健康福祉の里を中心として必要な情報を提供できるような努めている。低所得者に対する当市独自の軽減策があり、通常10%の利用率が5・5%に軽減できるので周知をはかりたい。

答 森林の手入れによる間伐材など未利用資源を活用した、バイオマス発電や熱などを利用した環境に優しいエネルギーへの仕組み作りについて調査・研究をする。

その他の質問

●「修正・子育て新システム」関連法案に対する市長の見解について

問 衆議院が解散され、国民の支持を失った民主党では選挙を戦えないと言った、民主党議員の選挙目当てとしか思えない行動や離合集散ぶりに国民の目線は冷ややかである。特にも震災被災者には「国会議員の自己保身」としか思えない行為と言った声がネットにあふれている。市長の見解を伺う。

答 自己保身とも捉えかねない一部国会議員候補者の行動や政党の離合集散には、

問 第5期介護保険事業計画が4月から始まったが、全国的に、訪問介護での生活援助の時間短縮の問題が指摘されている。当市においては問題がないのか。また介護保険は、制度が改定されるたびに複雑になってきているが、市民への周知は充分になされているのか。低所得者に対する減免制度について伺う。

答 今回の介護保険法の改正でサービス提供単位の時間が短くなることが問題点として指摘されてきたが、

問 東日本大震災以降、政府のエネルギー政策の基軸に再生可能エネルギーが位置づけられた。小規模分散型で、地域レベルで取り組みが可能な再生可能エネルギーの重要性が再認識され

ている。当市でも多様な再生可能エネルギーへの取り組みがなされている。山林資源が豊富な当市の木質バイオマスエネルギーに対する取り組みを検討するべきと考えるが。

再生可能エネルギーへの 取り組みを検討すべきでは



遠野市バイオマスタウン構想図



荒川 栄悦 議員
(清風会)

広域経済圏及び広域連携に

ついでに具体的な構想は

一問一答
方式

問 横断道の開通や、立丸峠のトンネル化といった遠野を取り巻く道路網の整備完了が見えてきたが、遠野市総合計画にある広域経済圏及び広域連携の具体的な構想は。

答 遠野の地勢的、地理的、歴史的、文化的、産業的な役割や機能にも濃淡がある。色々な場面で、市民がそれぞれの立つ位置において取り組んできた中に、この広域経済圏や広域連携の在り方が模索されてきた歴史が

ある。その一つの表れが、今般の大震災被害に対して、遠野の役割として、市民の理解のもと「後方支援」として示すことが出来たのではないかと思う。また震災前に定めたものだが、市総合計画に、「100年の縁を次の100年の絆に」という言葉がある。それは、交通網の整備を視野にいれた、観光振興、企業誘致や内発型の起業、地場産品の振興等を図ることを示している。さらに、多様な人的交流や物的交流のネットワークを促進することを狙いとしている。

過型にするつもりもない。そのためにも「遠野市の魅力」を高めることが大事である。中心市街地の活性化、柏木平レイクリゾートの再生、水光園の芸能館整備等々様々な対策や整備をしてきた。ソフト面でも遠野の文化、風土というものをさらに発信するよう努める。また、JRの企画で平成25年の秋にSLが盛岡釜石間を土日祝祭日に運行するところが決定した。これを機に、宮澤賢治ゆかりの銀河鉄道をモチーフとしたイベントも検討し、メガネ橋周辺の観光ゾーンで多様なイベント

を展開していきたい。また、遠野駅から昔話村までの観光客の動線を、中心市街地活性化の面から取り組んでいきたい。そのために、中心市街地活性化市民懇談会を設置し、庁内に調整チームを設置する。また、空き家、空地の調査をし、フアザード事業を含めた景観条例の制定に取り組むこととしている。さらに、遠野市内の産直についても「魅力」を高めていくことが重要な対策と考え、そのための支援を行っていく。



多彩な催しが期待されるめがね橋近辺

問 ストロー現象や、観光客の素通りへの対策は。

答 遠野市をストロー化させるつもりもなければ、通

ストロー現象や、観光客の

素通りへの対応は

※ストロー現象とは

大都市と地方都市間の交通網が整備され、便利になると地方の人口や資本が大都市に吸い寄せられること。

粗飼料基盤の早期除染・ 草地更新対策を

一括質問方式



菊池 由紀夫 議員
(新興会)

ている。

いち早く、確実な除染を行って畜産農家が通常の経営状態に戻り、農家の安心、消費者も安心、そういうものを確立し、遠野の畜産振興に向け精力を傾けることを願うのが目標である。

問 風評被害対策を含め、粗飼料による畜産経営を再建し、畜産振興を図るため農家に呼びかけ、自力施工面積を拡大し、早期に除染を完了することを望むが対応は。

答 100 Bq/kgを超えた県の除染事業対象面積は、4260 haとなっており、公共牧場2216 ha転作田を含む農家所有草地2044 haを2系統に分け、公共牧場は5年、農家所有地は3年で除染することを目標とし

文書を改めて発送することとしている。

問 農家の除染作業機械の破損に対する適切な補償が必要ではないか。

答 自力施工農家の作業機械の破損の修理状況について調査を実施し、県農業公社及び岩手県の担当課とも十分協議し、農家に対する補償について要請する。

問 多様な価値観の中でも、遠野らしさを失わないですべての市民が交流し共生できる、市民協働の、共生の

まちづくりが必要ではないか。

答 農業・農村は、食糧生産という重要な役割を担うと同時に、自然環境、歴史文化、伝承芸能地域資源が豊富に存在し、国土保全や水源涵養等多面的な機能の発揮が求められていることから市民協働による農村文化の伝承や農村環境の保全、加えて農林業体験やグリーンツーリズム等の都市交流の取組みは重要と考え、広く遠野と連携し交流・定住の事業に取り組んでいる。

議員からの質問の中で様々提言があったものを含め、いきいきと市民が交流する農業のあり方について、更に取り組みをすすめてゆく。



自力施工による転作水田の除染作業

※Bq=ベクレル
放射性物質が放射線を出す能力を表す単位

いきいきと市民が
交流する農業のあり方を



菊池 民彌 議員
(新興会)

民話のふるさと遠野から 児童虐待をなくそう

一括質問
方式

問 東北横断自動車道の宮守、東和間の開通が、本市の発展にどんな意義をもたらしたのか。また、本自動車道利用に懸ける本市の産業の柱を何にするのか。

答 期待される効果として、防災力の強化、産業振興、救急医療体制拡充への貢献が期待できる。この横断道により、内陸と沿岸部の農産物や、工業製品の出荷等物流の活発化と、多様な物流のネットワークの形成、観光による交流人口拡大が

図られる。沿岸部や、近隣市町からの物流を中継するハブ機能の保持が大切と考える。企業誘致や、内発型産業の育成による産業と雇用の集積も大切と思う。

問 中学校再編による空き校舎となる校舎の利活用については、利活用計画がまとまっているものか。利活用未定の場合、どんな方法で利活用方針を示すのか。私案として、校庭と体育館は各地域の総合型地域スポーツクラブの利用を、教室は各種団体の拠り所として開放することや、以前にも触れたことのある博物館の分館の利用を図るとともに、観光の用に供してはどうか。

答 中学校再編後の施設跡地の活用は、地域と協働し

ながら地域を活かす方策を検討する。校庭・体育館は、地域のスポーツ活動等に活用できるよう、年度内に進める。議員の私案については、地域づくりに基づく活用策の一案として、今後の検討に当たっての参考とさせていただきます。

問 児童虐待相については、本市の実態がどのような傾向にあるのか。防止にあたっての組織体制と関係機関、団体の連携と、今後の防止対策の取り組みをどうするか。

答 児童虐待相談の状況は、平成22年度21件、同23年度24件と微増。県福祉総合相談センターへの一時保護及び長期施設入所は、平成22年度3人、同23年度4人という状況。遠野市要保護対策地域協議会を設置し、会議を開催し、情報共有と個別ケース検討会を開いて対応している。

虐待防止のPRと、わらすつこ条例で保障される子どもの権利を守るため、関係機関団体と連携を図り、防止に取り組む。



今年度開催された要保護児童対策地域協議会

※ハブとは…
ハブ (英: hub、
拠点のこと)

中学校再編成に伴う 空き校舎の活用策は

特産品わさびの 振興をどうする

一問一答
方式



龍本 孝一 議員
(新興会)

力を入れており、ビニールハウスによる「宮守方式」で生産され、豊富な湧き水を利用した品質の良い、歴史ある特産品である。

問 宮守わさびバイオテックノロジー公社との今後の連携は。

インターネットを活用した情報発信、市場関係者へのブランドイメージの定着化の取り組み、ゆるキャラ等のPR活動、遠野ふるさと公社と連携した取り組みを行いたい。

問 遠野市を象徴し、地域特性に適した農産物の特産品は何か。

答 ホップやわさび、トルコギキョウ、ヤマメ、シイタケ等であり、近年はタラの芽、ブルーベリー等の特産品化に努めている。

問 旧宮守村時代から続くわさび栽培の特産品としての認識や位置付けは。

答 当市を代表する重要な特産品として、その振興に

問 更なる特産品のイメージアップや、地位確立の振興策は。

答 わさびを含む特産品のイメージアップを図るため、

問 「わさび全国大会」招致開催の意向は。

答 全国大会が開催されることは、産地のPR及び生産者の意欲向上にもつながって生産振興上有効であり、次回平成26年度の島根県開催後の招致に取り組みたい。

問 市内の空き家や廃屋の現状と、所有者や管理者の実態把握は。

答 今年の7月に市内の廃屋・空家の概略調査をした結果、対応が必要と報告された家屋は72戸であった。現時点では、個別の所有者・管理者の実態は把握していない。

問 維持管理者への解体費用補助を含めた適切な管理対策や市の対応は。

答 私有財産である建物は、所有者等の責任で適切に管理することが基本であるが、地域の安全な生活環境を守る必要がある。解体費の補助制度を設けるだけでなく、公共の福祉を維持するため、行政代執行により私権へ踏

み込んでいく場合も想定されることから、慎重な議論も必要となる。

問 空き家対策条例制定の必要性は。

答 十分な調査検討が必要だが、既に条例を制定し、取り組みを実施している自治体の実例等を参考にしながら、防災・防犯、生活環境悪化防止のため、制定に向けた検討を進める。

市内の空き家の 現状と対策は



ビニールハウスで栽培されている遠野の名産わさび



石橋 達八 議員
(無会派)

新規就農者の増加・定着策を

一括質問方式

組みについて伺う。

問 当市の地域活性化で、農業の振興は重要な位置づけがされる。耕作放棄地の増加や、高齢化が進むなか、新規就農者の更なる増加、定着を進めるべきではないか。また、六次産業の積極的な取り組みを望む。

答 将来、有望な青年農業者について、遠野市農林水産振興大会で奨励部門を設け、表彰、激励している。新規就農者の支援のひとつとして、アドバイザーの活

動により、既存設備等の経営資源を円滑に継承・有効活用ができるよう、きめ細やかな情報収集とマッチングに努めていく。六次産業化については、動向を捉えながら積極的に支援をしていく。

問 子育て支援の上からも、不育治療に対する公費助成ができないか。

答 県内で、不妊治療費助成は32市町村中、13市町村が実施しているが、不育症治療費の助成は行っていない状況。今後、支援を検討していきたい。

ス方式で進められないか。

答 「都市鉱山」とも呼ばれる使用済み携帯電話や、小型家電に含まれる希少金属や貴金属の資源の回収は大切と認識している。今後、県、民間企業・団体と連携しながら資源回収に努める。LED照明については、現在市内の一部で採用しているが、その検証を踏まえ、他の施設への拡大も検討したい。導入方式については、財政計画を持つ必要があることから、リース方式についても検討する。

問 今こそ平和教育が求められる。当市教育への取り

答 戦争の悲惨さ、広島・長崎への原子爆弾の投下については、小中学校の社会科の内容として、「国民が大きな被害を受けたこと」「戦争が人類全体に惨禍を及ぼしたことを理解させ、国際協調と国際平和の実現に努めることが大切であること」を教えることになっていく。これらの取り組みに、東日本大震災により岩手県全体で新たに取り組んでいる「復興教育」を加え、いのちの大切さ、人と人との絆の大切さを伝えていきたいと考えている。



12月2日に開催された
ハッピーバースデーゆりかご&
元気わらすっこ暖らん会

問 循環型社会の構築のため、携帯電話や小型家電等のリサイクルやLED照明の公共施設への導入をリ

不育症治療費への助成は

松くい虫被害を どう食い止めるか



多田 勉 議員
(清風会)

処理予定である。

問 森林との関わりなくして、当市の市民生活の安定と向上は図れない。被害木の利用促進など具体策を示すべきではないか。

答 防除員の巡回強化と、遠野地方森林組合が実施する松くい虫感染源クリーンアップ事業で対応する。今後は、被害木の活用策が課題である。

問 「遠野市木質系バイオマス活用推進計画」では、バイオマスエネルギーの活用体制を備えるべきと提言しているが、この提言実現の考えはないのか。

答 アカマツや、杉の間伐材の活用は林業として雇用

一問一答方式

る。また、50 Bq/kg超のホダ木も市が処分する。対象生産者23名のホダ木約九万七千本を収集し、破砕等中間処理を行い堆肥化する。

問 それらを踏まえ、今後の生産継続への具体的支援策は。

答 市有林から原木を安価で供給する。市内生産者から取りまとめた原木本数は、昨年の六千本に対して今年度は千五百本と少ない状況。原発事故による先行き不透明感により、新たな植菌を見合わせる生産者が多い。

問 放射能被害対策のための機動的予算五千万円を、生産継続のための環境づくりに活用すべきではないか。



松くい虫被害発生時の仕組み

答 原発事故によつて生産者は甚大な傷を負った。25年産原木しいたけからの出荷再開を目指すとともに、数年後の収穫に向けて早急に取り組みなければならぬ。原木購入や種駒購入への助成を行い、遠野産原木しいたけが途絶えないように生産継続後押しする。

しいたけ生産の継続に 積極的支援を

※Bq=ベクレル…放射性物質が放射線を出す能力を表す単位



菊池 邦夫 議員
(新興会)

安心安全、

利便性の確保を

一問一答
方式

問 新張、八幡地区の道路整備について、地域住民の要望に応えてもらいたいが。

答 旧消防庁舎跡地の利用の検討を進めており、そこに接続する道路の整備は必要と認識している。社会資本整備総合交付金事業の制度を活用し、整備することが考えられる。

問 消防の広域化推進計画の動きは。消防本部の広域化により、大震災の教訓を

基に、小規模な消防本部への支援連携を強化する方が効果的ではないか。

答 消防力、組織体制、財政規模等による「広域化に関する基本指針」が国から示され、県はそれを受け、岩手県消防広域化推進計画を策定している。3パターンの広域化推進計画の課題、組み合わせ等について検討し、県に対し「賛成しかねる」意見書を提出している。今後も消防広域化については、国県の動向を見据えていく。

問 住民の足を確保する対策として、交通空白地の解消策は。

答 地域内公共交通についての協議をまとめるために、

交通関係機関・団体、事業者及び利用者の代表で構成する「遠野公共交通会議」を設置し、デマンド交通の導入、バス路線の中心市街地以外の路線内であればどこでも乗り降り可能なフリー乗降制度、福祉有償運送

における外出支援事業などが挙げられるが、地域の特性や地理的条件などを勘案しながら交通システムの構築を目指し、さらに検討を進めていきたい。

問 介護予防の推進、安心して歩けるウォーキングマップを作成する考えは。

答 既存のサービスメニューを活用し、自ら自分のペースに合わせて健康づくりに取り組み、予防につなげていただきたい。

問 早瀬川公園にトイレ整備を進めるべきでは。

答 多くの市民に利用され、トイレ整備は検討課題である。隣接する材木町児童遊園と併せ、関係住民の意見を取り入れ、進めたい。



早期整備が望まれる狭小な県立遠野病院周辺の道路

介護予防のための積極的な推進策は

皆さまからの議会への提言をお待ちしております

「わたしの ひとこと」



佐々木 恵理子 さん
(附馬牛町)

このコーナーは、市民の皆さまのまちづくりの夢や希望などを掲載しています。掲載希望される方は、お気軽に当事務局までお申し出ください。

「つながり」

釜石から附馬牛町に嫁いで18年になりました。当初は、アイスバーン？水道の水抜きって何？と、全く違う環境に戸惑いました。

子供が産まれてからは、保育園・学校PTA・地区行事・就職などでたくさんの人たちとのつながりが出来ました。そして、今まで何気なく毎日を過ごしてきました。

このたび、地域活動専門員(附馬牛地区担当)となり、改めて見つめ直してみると、私の知る附馬牛はほんの一部

であり、まだまだ知らない事ばかりだと気付かされました。これからは、意識して地域の人たちとの関わりを持ち、歴史や文化を教えてください、覚えていきたいと思えます。そして、今までのつながりを大切にしながら、地域の人たちの声に耳を傾け、次の世代につなげていくパイプ役になれればと思っております。気負わず自分の出来る事から先ずは取り組んでいきたいと思っております。どうぞよろしくお願ひ致します。

編集後記

議員になり、各種の会合に出席させていただく機会が多くなりました。そんな折、開会が予定より遅れた場合などによく耳にするのが「〇〇時間」という会話です。中には許容範囲なのか？と思う時もありますが、これは「時間の大切さ」を暗に訴える言葉なのでしょう。「歲月流るる如し」、誰にも時間は大切なものなのです。

私たちの生活は、常に時間と密接な関係にあります。老若男女、万人に

公平な一日二十四時間が与えられ、この貴重な時間の積み重ねは個々人の人生模様に反映されます。自分の来し方を振り返ってみますと、公私ともに時間の無駄が多かったような気がします。このことをよく反省しながら、「議員として予定された時間内に効率よく結果が得られ関係者へご迷惑をお掛けしていないか」、そんなことを自己評価ごとに自問自答しているこの頃です。(大三郎)

【広聴広報常任委員長 就任のごあいさつ】

12月議会定例会において条例改正があり、広聴広報特別委員会が常任委員会に昇格になったことから不肖私とその委員長に、委員にも同メンバーが選任されました。これまで以上の情報の発信、公開、共有に努めて参りますので、今後ともよろしくお願ひいたします。

- | | | | | | |
|-------|--------|-------|-------|------|---------|
| 委員長 | 副委員長 | 委員 | 委員 | 委員 | 委員 |
| 瀧澤 征幸 | 菊池 由紀夫 | 萩野 幸弘 | 瀧本 孝一 | 多田 勉 | 佐々木 大三郎 |

●次の定例会は、3月1日(金)から3月15日(金)までの15日間を予定しています。改めて議会運営委員会で決定されます。審議日程などの詳しいことは、議会事務局にお尋ねください。

